

公益社団法人日本技術士会 CPD 行事 報告書

開始日時	2024 年 3 月 18 日 (月)	18 時 00 分
終了日時	2024 年 3 月 18 日 (月)	19 時 30 分
名称	第 127 回専門知識向上講演会 県内 4 団体合同勉強会 (リモート)	
主催者	千葉県庁技術士会及び公益社団法人日本技術士会千葉県支部	
開催場所	ZOOMによるリモート講演	
行事内容	講演 1 : 「ダム群連携最適操作シミュレータの開発」 独立行政法人水資源機構総合技術センター 田村和則氏 講演 2 : 「東京湾アクアラインETC時間帯別料金社会実験」 千葉県庁千葉県道路計画課 中村主査	
参加人数	25 名 (ZOOM 講師 2 名と千葉県支部からの参加者)	

3 月 18 日 (月) 18:00~19:30 に千葉県庁技術士会が事務局となり、千葉県内技術士会 4 団体の合同勉強会 CPD 講演会 (Zoom 講演会) が開催されました。

講演題目は 2 つで、25 名が参加されました。概要は以下のとおりです。

講演 1 は、内閣府による「SIP プログラム (Cross ministerial Strategic Innovation Promotion Program : 戦略的イノベーション創造プログラム)」2 期のサブテーマ 2 で、「河川・ダムの長時間洪水予測・防災支援システムの開発」の研究開発の成果をご紹介いただきました。

木津川は、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良の 2 府 4 県にまたがる淀川水系の上流にあり、宇治川、桂川の三川が京都盆地の南西部で合流し淀川となって大阪湾にそそいでいます。木津川流域面積は淀川流域の約 20% を占め、6 つのダムにより洪水の軽減や各種用水の補給を行うなど、大きな役割を果たしています。今回の講演は、これらのダム群を連携した最適操作シミュレータの開発を目的としたもので、ダム群の危機管理操作の最適化 (アニメーリング技術を用いた高速演算) を図り、ダムごとの雨量の予測、最適放流量の組み合わせにより下流河川の最高水位を低くし、治水効果と発電の拡大を図るための最先端の技術開発です。また荒川と入間川の氾濫リスクを低減するシステム構築に向けた成果もご紹介いただきました。ダム群操作による洪水防止と我々の生活用水の確保と安全、電力の確保など、天候に左右される上流域のシステム開発のご苦勞を改めて認識しました。

講演 2 は、平成 9 年 (1997) に開通した「東京湾アクアラインの ETC 時間帯別料金社会実験」の実施状況と交通量や観光客の変化などについての話題です。ETC 車 800 円が平成 21 年に開始されて以来、交通量の増加が著しく、H18 の 17,600 台/日が R4 には 51,760 台/日と 2.9 倍に達し渋滞回数も増加したことから、平成 5 年 7 月 22 日から渋滞する上り下りの時間帯 (13~20 時) の料金を 1.5 倍の 1,200 円に、また、渋滞のピークがなくなる 20~22 時の料金を 600 円に下げた全国でも初めての社会実験です。

これまでの実験では、13~19 時の交通量はほとんど変わらず、19 時台の交通量は減少し、20 時台の交通量が増加、渋滞長、渋滞発生日も減少しているとのことでした。

高速路線バスの運行状況も定時性が向上し、観光客の県内滞在時間も 2 割増加しているとのこと、この社会実験は来年まで延長する方向で検討中とのことでした。

今回の 2 講演は、私たちの普段の生活に大きく関わる内容で大変わかりやすくご講演いただきました。ここにご講演いただいたお二人の講師に感謝申し上げます。